建築環境フィールド研修や都市防災の研修実績に基づく日本の最先端の技術・研究の実態把握（C.科学技術研修コース）

東京都市大学　環境学部　環境創生学科 リジャル H.B.

2020 年 1 月 23 日～30 日の日程でネパール･トリブバン大学工学部から修士課程学生 9 名、教員 1 名を招へいし、プログラムを実施した。

23 日はオリエンテーションを行い、本大学や環境創生学科を紹介し、図書館・演習室・研究室などを案内した。

①オリエンテーションの記念写真

24 日は温熱環境、熱的快適性、環境調整行動に関する研究方法を学ぶため、東急不動産のオフィスビルで実測調査とアンケート調査を行った。また、東急建設技術研究所を訪問し、建築・都市環境デザインに関する情報収集、省エネルギー改修技術、人工気候室、音響実験室、地震実験室などを見学した。

②省エネルギー改修した建物の説明

25 日は川崎民家園における日本各地の伝統的民家の技術を見学し、熱的快適性調査を行った。

③伝統的住宅の熱的快適性の調査風景

26 日は日本の科学技術と防災技術に関する情報収集を行うため、日本科学未来館と東京臨海広域防災公園を見学した。また、伝統的建築や近代建築の技術を学ぶため、国立西洋美術館や東京スカイツリー、浅草の街並みを見学した。

④ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館

27 日は建築・都市環境に関する研究を実践的に学ぶため、東京大学生産技術研究所大岡研究室の人工気候室、サーマルマネキン、風洞実験室などを見学し、大岡研の学生達に研究発表してもらった。また、大岡龍三教授は東京大学「理想の教育棟」の地中熱、日射遮蔽、日射利用など環境配慮技術について説明して下さった。

⑤風洞実験室で 25m/s の強風を体験している様子

28 日は宿谷昌則本学名誉教授による建築環境のバイオクライマトロジーに関する講義を受け、建築環境システムについて理解した。また、調査したデータの入力・整理を行い、熱的快適性の分析方法を学び、発表資料を作成した。

⑥実測データを入力・整理する参加者達

29 日は参加学生全員が研修成果を発表した。また、本学に所属する加用現空准教授と 9 名の学生も研究成果を発表した。夕方には閉会式が行われ、吉崎真司副学長から修了証が授与された。その後は懇親会が開かれ、参加者がネパールの民族衣装を着て、歌やダンスも披露した。

⑦研修成果発表する参加者

⑧懇親会の様子

30 日は三木学長を訪問して本研修で感じたことを報告し、今後の大学院進学や教員交流について意見交換を行った。また、本学機械システム工学科の永野秀明准教授の研究や研究設備を紹介し、参加者の熱画像も撮影してもらった。さらに、本大学建築学科の製図室を見学し、模型・図面を作成している学生達と交流を深めた。

⑨三木学長との記念写真

⑩参加者の熱画像

今後、100 ページ程度の成果物をまとめて公開する予定である。これは参加者達にとって良い経験になるだけでなく、日本で学んだことを多くの人々に情報発信することにもなる。研修生は本プログラムに非常に満足しており、協力頂いた方々に大変感謝している。